

第143回定例会 報告レポート

■2011年7月11日（月）15:00～18:00

■TOTO(株)虎ノ門ビル（東京都中央区）

（本レポートの著作権は、メンテナンス研究会に帰属します。）

転記・引用等の際には、事務局にご一報下さい（連絡先は巻末に掲載）



■テーマ ～東日本大震災シリーズ②～

「3.11 その時私は家族は仕事は交通はトイレは——」震災体験レポート発表会

代表スピーカー：■NPO 法人 Check 代表理事 金子健二様

■(株)総合サービス 代表取締役 新妻普宣様

…ほか会員および関係者（全11名）

3月11日に起こった東日本大震災では、被害に遭われた方々に謹んでお見舞い申し上げます。

さて、被災地の状況や原発のことも気になりますが、被災地以外の私達普通の生活者も、あの一瞬の震災で、生活や価値観が一変しました。そこで今回は会員それぞれが被災時から現在にいたるまで、どんな経験をし、どんな影響があったか？を等身大に語り合う事としました。11名の発表がありましたが、それぞれの工夫と対策の4カ月間であったことが分かりました。トイレに限らない話題ですが、自分以外の状況を知る有意義な体験発表会となりました。

■発表者1：金子健二氏（NPO 法人 Check 代表理事／東京都）

「宮城県への自動ラップ式簡易トイレの寄贈ボランティア報告」

私は元々、旅行業界の出身で、高齢者や障害者の方のためのトイレマップが欲しい…との思いから、携帯端末などで全国のトイレマップの登録&公開を目的としたNPO法人を立ち上げて活動しています。

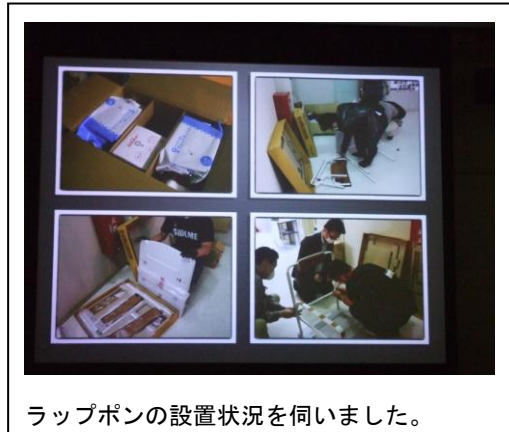
今回の震災に際し、私に出来ることは何かを考え、2つのプロジェクトを取り組みました。1つ目はネット上に、福島県・宮城県・岩手県の「使えるトイレ」（多機能トイレに限らず、普通のトイレも含めたもの）を公開することです。これは自宅でパソコン作業を行い3日間で出来あがり、3月17日より公開しています。



ボランティアの状況を報告して下さった金子健二氏。その行動力に勇気を頂きました。

2つ目は、宮城県の沖合でトイレが不足し衛生問題が発生している地域に、衛生的なトイレを寄贈することです。いろいろ調べた結果、水を使わずに汚物処理のできる自動ラップ式トイレ「ラップオン」<<http://www.wrappon.com/>>（日本セイフティ株式会社）と出会いました。そこで私は日本財団に申請をし、感染症を防ぐ活動の一環として1200万円の支援金を獲得しました。そして「ラップオン」を36台、宮城県女川町・石巻市・南三陸町の避難所6カ所に寄贈することにしました。

4月26～28日に現地に行き、1か所の避難所に4～5個を設置しました。このラップオンは腰掛式の簡易便座で、座った位置に専用のビニールを付けておき、使用後は熱で左右から閉じて密封し（腸詰式のウィンナーみたいな感じ）、それを次々に下層部で保管し、燃えるゴミとして廃棄するという具合です。このラップオンは軽い上に、組立も10分くらいで出来ます。また不要時は重ねて置き、繰り返し使用が可能です、保存性も良く大変便利です（ただし電機は



ラップオンの設置状況を伺いました。

必要です）。さらに悪臭もなく、衛生的です。加えて、プライバシー確保のための専用個室「ダンビー」（段ボールで出来た電話ボックス位の囲い）も同時に設置したので、避難所内の廊下や人影の少ない場所で気兼ねなく用が足せるようになりました。最大の貢献はノロウィルスの感染防止にも貢献できたことでしょう。

この仕組みの良さは、他の仮設トイレと違い、室内に設置できるので、高齢者や夜間使用者が安全にトイレに行けるようになったことと、腰掛式（洋式）ですので、足の不自由な高齢者やしゃがみ式（和式）トイレに慣れていない子供達に重宝している点です。

価格は、1台20万円相当で、ビニール部分は50回分のロールが5000円となります。今後はこのビニールロールの補充を中心に、引き続き支援をし続けたいです。また長期的にはトイレ調査や雇用創出につなげられれば…と思っています。

■発表者2：新妻普宣氏（株）総合サービス / 東京都

「東日本大震災 被災地におけるトイレ事情」

私は（株）総合サービスで、災害時にも活用していただける携帯トイレを扱っております。今回は、4月上旬に4か所の被災地を訪問し、避難所のトイレを見てまいりましたので、報告いたします。

まずこの震災は震度7で、津波の最大高さは18.3m（宮城県女川町）。トイレにとって大切なライフラインである上水道は、約250,000軒で断水。下水道の被害は詳細不明です（编者注：データはすべて4月9日ごろのものです）。

①宮城県石巻市

ここでは上水道は不全（断水）のトイレは「仮設トイレ」又は「既設トイレにて水を汲んで汚物を流している」状態でした。仮設トイレは汲取りが来ていないので一部の仮設トイレが使用中止になっていました。側に清掃道具やゴミ箱があり、秩序を守ろうとする姿が見受けられました。

②宮城県仙台市

まず沿岸エリア（宮城野区）は、上水はほぼ復旧でしたが下水は不全。トイレは「仮設トイレ」又は「既設トイレに水を汲んで汚物を流す」でした。避難所のトイレはテント型で、周囲を厚手の布で覆う組み立て式トイレだったのですが、段差があり和式だったので、大変不評でした。ポットン型ですのでバキュームカーが毎日、汲取りに来ていました。

そこから20分移動した市街地（若林区）の避難所では、同じ仙台市内でもだいぶ変わり、いたって普通の状況で、既設トイレを普通に使っていました。清掃も行き届き、その違いに驚きました。

③宮城県名取市

ここは上水道がほぼ復旧しておりました（下水は不明）。トイレは既設トイレが中心で、仮設トイレは予備として使用している程度でした。

④宮城県山元町

ここは上水が一部復旧（下水は不明）で、トイレは「仮設トイレ」でした。仮設トイレは外に置いてありましたが、ボランティアが宿泊するテント村のそばで、夏になった時に悪臭が発せられるのでは？と気になりました。また中にはトイレトペーパーを自分で使うために持って行ってしまおう人がいたそうです。

⑤まとめ…最後に、現場の被災者や管理者にトイレに関する各種問題点についてヒアリングを行ったのですが、「トイレが不安」「暗い」「和式タイプは使いにくい」「バキュームカーが来ないと使えない」などで、残念ながら16年前の阪神淡路大震災の時と、ほとんど似た結果が出て、愕然としました。災害トイレを少しでも良くしようと長年活動していたつもりが、まだまだだったと思い知られたからです。まだ現場は厳しいですが、私達のできることをこれからも頑張ろうと思います。



津波の恐ろしさを物語る電信柱にひっかかった自家用車（写真提供：㈱総合サービス）



仙台市のテント式の組立トイレ。「段差もあるし風で揺れ、覗かれそうで怖い」と不評だった（写真提供：㈱総合サービス）

■発表者3：森田利香（株）アメニティ / 神奈川県）**「3.11 その時、私は…」**

私は大阪にいました。地震には全く気が付かなかったのですが、16時ごろ新幹線に乗ろうとしたら、上下線とも止まっており、家族からの緊急な電話により、初めて大きな震災が東北地方起こった事を知り、関東地方にも大きく影響が及んだと感じました。

なんとか娘の友人のお母さんに連絡が取れ、子供2名（小学生）の安否を確認。その方に夫が戻るまでの間子供を預かってもらうようお願いし、やっとホッとできました。駅の構内は特にアナウンスもなく、近くのテレビからは津波の映像が映っているばかりで、詳細な情報が手に入らない不安を覚えました。次は宿を確保したかったのですが、ホテルは予約が殺到。そこで神戸の会社関係者に助けを求めました。神戸では通常通りの状態でした。翌日の朝、新幹線が動いたので始発で神奈川県に帰省。会社に行くと、帰宅難民になった社員の事など、ただならぬ空気で浦島太郎のような気分になりました。震災時は日々便利に使っているツール（携帯電話など）が役に立たなくなる事を痛感させられました。

■発表者4：長谷 寛氏（TOTO株）／神奈川県）**「私の体験談」**

私は東京都目黒区で打ち合わせをしており、帰ろうとした瞬間グラ〜と長い異様な揺れを感じました。外に出ると電柱が揺れ、電線がビュンビュンと音を立てていました。道も本当に揺れていました。その後、会社にも電話が繋がらないので、神奈川県茅ヶ崎市の自宅まで歩き出しました。しかし6時間が経過し疲れ果てたので、某中学校に泊ることに…。軽食や毛布を与えられ有難かったものの、体育館の堅い床では熟睡できませんでした。家族は5人ともバラバラで、安否を確認できたのは22時。全員が揃ったのは翌日の12時でした。みんな「携帯電話が役に立たなかったね」と話しました。

本当なら、その後東北地方に旅行に行く予定でしたが、ガソリンもないので、結局家族団欒の日々を過ごしました。ただし育ち盛りの子供が3人もいたので、最初の一週間は自分達の生活確保で精一杯でした。計画停電も7回経験し「自分くらい贅沢をしても…」という価値観は無くなりました。

トイレのメーカーとしての報告ですが、「トイレの水が流れない」という苦情が多く寄せられました。なぜなら電気が無いと流れない商品があったからです。今後の商品開発では、自己発電や手動対応などを検討するべきと学びました。東北の支社や部品工場は、必要部材の確保の困難などがありましたが、6月にはほとんどが動き出しました。これからも防災意識を大切にしていこうと思います。



計画停電で信号が止まっている街の様子。
(写真提供：アントイレプランナー)

■発表者5：井上和男氏および社員の方々（㈱レッツクリエイト／埼玉県）

「千葉県と仙台市で味わった震災」

- 社員 A さんの話：私は千葉県袖ヶ浦市の小学校のトイレ清掃をしていました。震災中はトイレのドアにしがみついたものです。作業を早々に切り上げ、帰宅するまでの間が実はもっと大変でした。なぜなら道路は大渋滞の上、ヘリコプターが旋回しており、近くには黒い煙が見え、そのうち火柱に変わったのです。これは市原石油コンビナートの火災現場の近くにいたせいです。私はなんとか逃げ出そうとしましたが、渋滞はひどく、往路に2時間かかったのに対し、復路は8時間もかかりました。
- 社員 B さんの話：私は仙台市内のビルのトイレでデモ作業をしていました。ところが震災時になると、トイレの壁タイルや天井ボードが降ってきました。身体には影響は無かったものの、東京に戻れない状態となり、前泊したホテルのロビーで夜を明かすことになりました。翌日街に出て自家発電で動いているテレビを見ることが出来、津波の映像に驚愕。「自分も当事者になっていたかもしれない」と我が身の幸運に感謝しました。結局さらに1泊し、仙台→山形→新潟と移動しさらに一泊。翌日やっと大宮に戻ることが出来た時には、便利な生活のありがたさを痛感しました。
- 社員 A さんと B さんの後日談：震災から49日目に仙台を訪問し、関係者に挨拶をしました。この震災で近所の方との交流や助け合いが生まれたなどのエピソードを伺いました。被災地には興味本位で入ってはならないと訪問を控え、帰路の間、自分達に出来ることは何か？を話し合いました。これからも忘れないでいたいと思います。

■発表者6：内田康治氏（㈱アメニティ／神奈川県）

「震災当時の私」

私は横浜市内の勤務先で揺れを感じましたが、大した被害が無く、家族も全員無事。かえって申し訳ない気分になり、傍観者的な自分に自問自答したものです。会社では取引先を訪問し、手伝えることは無いかを確認するなどしました。しかしフランチャイズの加盟店の東北エリアの方々と連絡が取れずに、やきもきしたものです（编者注：結果的にみなさんは無事だったので、今は復興に向けて頑張っているそうです）。



石巻市。船が津波で道路に…（写真提供：㈱総合サービス）

ところで、宮城県石巻市にいる親戚の、60歳の女性の話に聞いた話です。震災後、津波警報が鳴り、外に出るも足がすくんでしまい、知り合いの車に乗せてもらいなんとか避

難しました。途中、なぜか海の方面に向かう道路が渋滞しており疑問でした。しかしそれらは子供や家族を心配して迎えに行こうとしていた方々の車だったとか…。残念ながらそれらは津波に飲み込まれてしまったそうです。残念ながら、その方々の多くも津波に飲み込まれてしまったそうです。本当に胸が痛みます。

■発表者7：中森秀二氏（LIXIL㈱）／〈当時〉愛知県

「愛知県で感じた東日本大震災」

私は愛知県知多市にいましたが、そこでも大きな横揺れを感じました。その後は仕事に手が着かず、テレビの映像に釘付けでした。しかしその後は特に困る事なく生活をしており、関東地方で話題になった買占めのニュースも他人事に感じてしまいました。

最初の計画停電の朝、東京都の事務所の社員の様子が気になり、電話をしたのですがほとんどが出勤できずにおりました。社内では「東京方面には行くのを、しばらく控えるように」との指示が出されました。今後の教訓としては、離れて暮らす家族との安否確認の方法など、電話の不通時に備えて決めておくべきだと思いました。

■発表者8：白倉正子氏（アントイレプランナー）／神奈川県

「主婦の視点、そして、ネット社会と震災」

私は自宅から30分のデパートで揺れを感じ、落ち着いてからすぐ、子供のいる保育園に行きました。保育園では父兄が迎えに来れず、宿泊した子もいたそうです。家に戻りテレビを見て驚愕したものの、またいつ余震が起きて自分達も被災するか分からない…との不安から、いつでも避難できるよう、必死におにぎりを作ったり、家中の電池をかき集めたりしました。スーパーでは米やカップラーメンが店頭から消えていたのを見た時、これが非常時なのだ内心焦りました。計画停電は、地元消防本部があるせいで免れたものの、かえって申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

被災地に行きたくても、原発や道路事情・ガソリン不足や小さい我が子の事を思うと行けず苛立つ日々を送りましたが、インターネットを通じて、被災時のトイレ対策のノウハウを紹介したり、海外に住む友人にメールで状況を伝えるなど、ネット環境でできることを探しました。私も宮城県に知り合いがいるので、夏休みに現場に行く予定です。



米の入荷の無いことを伝えるスーパー（写真提供：アントイレプランナー）

■発表者9：勝俣敦祐氏（隊長バンド代表／神奈川県）

「音楽活動を通じた慰問に取り組んで」

私は横浜市で揺れを感じました。私の家は横浜駅に近いのですが、駅には6～9万人が被災し、街中に人があふれていました。横浜市防災リーダーをしている私は、町内長から出動要請をもらい、避難所として開放することになった近くの中学校に駆け付けました。私はかつて自衛隊で勤務していたので、その頃の経験を生かして、現場を指揮しました。非常時には行政や社会的構造を乗り越えて、経験者がとっさに有効な判断をし、実行に移す事が大事だと思いました。

ところで私は音楽が好きなので、有志で沖縄民謡のバンドを結成しています。今の被災地には支援物資もちろん必要ですが、心の支援も必要だと思い、「元気を届ける」を理念に、避難所に慰問し演奏活動をしています（このあと、音楽活動のビデオを拝見）。

音楽を通じて、被災地の人を励ましたいと願っている私ですが、現場に行くと大変に喜ばれます。中には「あなた達が初めて来てくれた」と涙を流して下さる方も…。またバンドの仲間の中には被災地が故郷だという者もあり、避難所で親戚と再会！というエピソードも生まれました。これらの活動はすべてボランティア（無償活動）です。でも楽しく続けようと思っています。

ちなみにトイレは、どこの避難所もキレイでした。清掃活動の邪魔をしていけないとの思いから、敢えて助言や手助けは控えています。これからも私の出来る事をしていこうと思います。



音楽活動で被災地支援をする勝俣敦祐氏

■最後に…坂本菜子代表より

テレビでは被災地の報道ばかりが紹介される中、そうではない普通の方達の状況を伺う事ができ、場所や立場の違う方々の状況を、幅広く知る事ができました。私も出先で被災し、帰宅するまでに非常に心細い思いをしたのですが、寄り添える家族の大切さや、人の温かさに触れた機会となりました。ところで私は神戸市の出身ですが、阪神淡路大震災のことを思い出しました。今回の震災はあの震災の教訓が生きていると感じています。今日伺った皆様のお話を、今後活かす時が来るのでは…と感じました。

（■レポート作成：白倉正子/アントイレプランナー代表）

日本トイレ協会メンテナンス研究会では常時、会員を募集しております。
会員になられると、定例会のお知らせや、報告レポートの送付等を受けられます。

□■日本トイレ協会メンテナンス研究会 入会概要■□

会員種別…法人会員〔年間費 30000 円〕

個人会員〔年間費 10000 円〕

○入会金は無し。

○後期以降（11月1日～3月31日）は半額。

希望者には所定の書類をお送りします。事務局にご一報ください。

◆事務局：〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢 685 (株)アメニティ内 (担当：内田)

TEL 045-372-1156 / FAX 371-7717

Mail : jimu@toiletmaintenance.org (担当：白倉)

ホームページ : <http://www.toiletmaintenance.org>

◆代表：坂本菜子 / 設立…1992年